

## ■北海道大が全勝で2年連続28度目の優勝

第49回北海道学生選手権は第8節の10月15日、札幌市円山競技場で1部の1試合を行い、北海道大が33-7で北海学園大を破り、5戦全勝で2年連続28度目の優勝を決めた。北海学園大は4勝1敗。北海道大は、第14回全日本大学選手権の北海道地区代表として、11月11日に岐阜・長良川メドウで行われる1回戦で東海地区代表と対戦する。第1試合に予定していた釧路公立大-北星学園大戦は北星学園大の棄権で釧路公立大の不戦勝となった。釧路公立大は1勝3敗、北星学園大は4敗。第9節は10月22日、札幌学院大グラウンド（江別）で2部の北海道科学大-札幌学院大の1試合を行う。



北海道大はQB神田智史（2年、東京・麻布高）の5本のTDパスで快勝した。QB神田は第1Q5分、WR川村虎鉄（2年、宮城・仙台第三高）への49ヤードパスで先制すると、4分後にはWR日高耀（4年、福岡・北筑高）へ62ヤードを投じて13-0とリード。さらに第2Q1分、第3Q6分、第4Q1分にエースWRの宮崎大地（4年、兵庫・星陵高）へ12ヤード、33ヤード、31ヤードの3本のTDパスを決めて勝利を決定づけた。第2QのTDは、エンドゾーン左隅へのピンポイントの一発だった。北海道大は守備チームも随所に好プレーを見せた。第2Q7分にはLB鯨井雅生（4年、埼玉・川越東高）が今季通算6個目のインターセプトで攻撃権を奪い、第4Q7分にはDB渡部健人（4年、東京・暁星高）が北海学園大の追撃を封じるインターセプトを決めた。第2Qと第4QにはDL浅井聡太（4年、東京・都立西高）とDL古家瑛斗留（2年、茨城・取手学園取手高）のQBサックも飛び出した。

北海学園大は0-20の第3Q4分、QB篠原浩大（4年、札幌北陵高）がWR加藤真之助（2年、札幌藻岩高）へ19ヤードTDパスを決め、RB高杉武生（3年、浦河高）

が第1 ダウンを9回更新する力走を見せたが、第1 Qに反則で先制のTDパスが幻になるなど要所でミスが相次ぎ、北海道大の逃げ切りを許した。



北海道大の降梁祐介HCは「秋のリーグ戦に向けて春からひそかに練習してきたプレーが実った。WRの宮崎は全国クラスの選手、その宮崎がカバーされた時にWR日高が頑張った。QB神田は度胸もあり、本当にうまくなった」と選手たちをたたえ「全日本大学選手権の1回戦はランの強い名城大が相手になりそうだが、今までやってきたことをベースにチャレンジャーとして挑みたい。歴史を塗り替えたい」と力を込めた。殊勲のQB神田は「北海道一になれてうれしい。TDパスはレシーバーのおかげ。名城大戦も先輩めがけて思い切り投げたい」と声を弾ませ、3TDキャッチのWR宮崎は「苦手だったロングパスも練習の成果を出せた。神田をQBに転向させたのは自分なので、どんなボールも捕ってやろうと思った」とホットラインに胸を張った。

一方、北海学園大の高木幸樹HCは「前半早めに点を取る計画でパスも通したが、ミスが多かった。実力差です。冬のトレーニングで体を大きくし、来春の勧誘で戦力をアップしたい」と巻き返しを決意。QB篠原は「出来たプレーと出来なかったプレーがあった。反則が多かったのももったいなかった」と後輩たちに雪辱を託した。